越高新聞
発行所　埼玉県立越ケ谷高校　新聞部　越谷市越ケ谷2788－1　0489－62－7285
印刷所　株式会社 [illegible]　0488－29－2828

趣味のパック　越中屋

自主性を望む

議題の検討を　定期生徒総会

去る七月十九日（月）、定例総生徒総会が体育館において開かれた。いつものことながら集まりも悪い、集まってからの態度も悪かった。生徒側は学校側をたいぶ追及したが、この経験を今後に生かして行こう。

進行は代議員会の手で行なわれた。初めに生徒側から、学校側への質問として
一、屋上の開放及び使用法について
二、中央玄関の通りぬけについて
三、球技会における出欠の取り扱いについて
が取り上げられた。それに対して学校側の解答として、屋上については、鉄筋の校舎増築工事以前は、解放されていた。しかし工事が始まってから以後、現在に至るまで閉鎖されたままになっているそれは屋上のまわりに一・二メートル以上の金網がない、異状事態（火災）が起きた場合、屋上から外に出る非常口がない。一般の屋上と違って、本校の屋上は屋根と同じで、荷重上加重に耐えられないということだった。しかし全生徒の大部分が屋上の解放を希望しており、学校側としても予算が許せば、できるだけ早く、屋上の設備を改善していくということだった。又使用法については監督がいればよいということだった。

中央玄関の通りぬけについてはやはり鉄筋校舎の校舎増築工事が始まる以前は、禁止されていた。工事が始まってからは、工事関係の車が本館の西側を通ると、危険ということで、玄関の通りぬけをしてもよいということになったそうである。それに玄関は、廊下の続きということと、清掃がたいへんだからということもあげられた。その対策として、八月中に門から本館のっち、玄関、体育館前へ通ずる道を、舗装にするということで、二学期になってから改めて考えることになった。又定時制の生徒については、なるべく通らないように、定時制側と話し合うということだった。

球技会における出欠の取り扱いについては、五月の球技会二日間とも欠席が多かった。ある学年は、二十名前後もいたそうだ。又球技会のマンネリ化ということを防ぐためにも、球技会の出欠を体育の時間の出欠に加えたということである。その結果として七月の球技会は、前までの球技会で一番出席率がよかったということである。この解答に対していくつかの質疑応答が行なわれた。それを書くと
〔生徒〕球技会を授業として扱うのはまちがいではないのだろうか。
〔学校〕学校行事の一貫としてやっているので、体育の行事とも考えられる。
〔生徒〕生徒会の行事ではないのか。
〔学校〕生徒会の行事も学校行事である。
（例・四月祭、文化祭）
〔生徒〕球技会はレクリェーションか授業の一環か
〔学校〕両方含まれる。
このような質疑応答が行なわれた。できるだけみんなが進んでやっていければ、このようなことはなくなるのである。

次に中央委員会から「生徒総会の在り方」という議題があげられ討論された。その内容は始めに、この議題について話し合ったクラスから問題提起され、総会で話している内容がわかりにくい、みんながわかりやすい議題にしたらどうか、総会に出席しても討論に参加しているのが少ないのではないだろうか、ということが提起された。それに対し、今後の方針として、みんなの不満などを話し合う、みんなが参加するのは、理想であって代議制にしたらどうかということが話し合われた。

次に今後、総会を定例会にするか、問題が出たら行なうかという提起に対して、今までの生徒総会の批判を反省して今後を進めていくことに決まった。他にいろいろ意見が出され、それらをあげてみると
一、生徒総会をやれば生徒の意見が反映されないなら
二、テーマには関係なく少しでもひとりの本当の意義が欠けている
三、けじめをはっきりさせれば問題はなくなる
四、開催の日に疑問がある
五、総会に対して不満があれば出して、解決の方向に持っていった方がよい
六、生徒総会があるからというのがすべての欠陥をきたす
という六つの点があげられ、今後の解決として、話し合っていくことになった。

（生徒総会のもよう）

まだ多い欠席者　球技大会

去る七月十四・十五日に恒例の球技会が行なわれた。七月も半ば暑さも増した校庭に、声援が響いて活気にあふれていた。夏の暑い日差しで真っ黒に焼けた顔からはどのクラスも力いっぱい頑張ったようにうかがわれた。

今回は前回と違って、体育委員会から問題点の改善が成された。ひとつは、原則は一人一種目となっているが、欠席者が多いので、やむを得ず、一人二種目も三種目にもなった。それで全員を参加させるために、必ず原則の一人一種目とした。もうひとつは、集合時間であるが、すまで競技者が時間を守らなかったので、敗退だけでなく、四つのコートわきに掲示版も置かれた。

今回の良かった点は、前回よりも欠席者が減ったことである。それから先生の参加が多えたことである。できれば全部の先生が出場して先生と生徒の交流をもっと深めて欲しいものである。

反対に、体育委員会の苦心にも変わらず、欠席者の多いクラスは本部まで届けて一人二種目にもなったところもあるし、また届けなかったチームは不戦敗になったところもある。集合時間についても、昼食の時に校内にいたチームはそこまで放送が行き届かなかったので、不戦敗になったチームもある。それから、コートわきに置かれた掲示版であるが、体育委員会は利用者が少ないと見て二日目は置かなかった。これらの点に問題があるのではないか。

今後、体育委員会では球技会に欠席者を減らし、生徒全員が参加できるよう検討して行きたいということである。球技会については生徒総会でも問題になったし他にまた問題があると思うが、体育委員会まかせきりだけでなく一人一人考えて欲しい。私たちの手でもっとよりよい球技会にして行きたいものだ。

（バレー決勝戦　3－6対2－12）

球技大会の結果

	男子	女子
バスケット	2－3・4	3－5
バレー	3－6	3－1
ソフト・テニス	3－4	2－5・6
ソフトボール	2－1・2	2－1・2
	3－8	3－3
総合	1位（19）	1位（20）
	2－1・2	3－5
	2位（17）	2位（16）
	3－6	3－5
	3位（16）	3位（15）
	3－6	3－3

（　）は点数

毎日貸し出し返納　図書委員会

委員会リポート

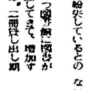
今号は図書館の管理運営の一部をになって活動している図書委員会をリポートした。

図書委員会の活動は、ご存知のように、図書（本）の貸し出し・返納の際の事務的な仕事（日曜・祭日を除く毎日当一日に四クラス）、蔵書点検年二回発行、〝りーぶる〟年一回発行〝葦〟の製作などである。また夏休みに入る二日前より一人二冊まで借りられるという、二冊貸し出し期間を設けた。その結果は、八月十日現在、三年生三六冊、二年生二九冊、一年生七冊。そしてその半数の図書は、二冊を借りた人を含んでいる。

その活動のもうひとつの成果として、今まで声の多かった〝毎日貸し出し・返納〟が七月中旬より実現できたことである。

現在、図書委員会では、定例委員会の不参加者が目立ち、日直になっているが、図書が、貸出切分以外にも、何故か、紛失しているとのことでした。

毎日、数冊づつ図書館に図書が購入より、入館してきて、増加するそれを合記の〝二冊貸し出し期間〟でわかるように、非常に借りる人が少ない。図書館は、本来、どうしても読み切れないというとき、もし借りた本が、このままもっておらずに、図書館で、貸し出し期間の延長の手続きが、その日に出き、また借りられるという制度なので、必ず返納日には返して欲しいということだった。また、蔵書点検を行なった本を図書館に入りにくいと感じる人がいるようだが、もっと利用しようという気持ちで行けば、そんなものは吹っとぶだろう。図書委員会の方からも、もっと利用するよう呼びかける手をうち、図書館をフル活動させようではないか。



インターハイ

陸上　関根四位・豊田八位入賞

ボート　惜しくも五位

去る八月一日から十一日まで、四国で行なわれたインターハイは本校から四クラブ（陸上・ボート・テニス・バスケット）が出場し、練習の効果を充分に発揮してきた。

陸上

結果
五種競技
④関根　保三年　三三三二点
棒高跳
⑧豊田　弘二年　四M二十
鈴木由夫二年　予選落ち

八月一日、徳島県鳴門総合運動公園陸上競技場において開会式が行なわれ、二日から五日まで競技が行なわれた。大会前はあまり練習をやらず、大会期間中も毎日朝の五時から五時半まで練習していてコンディションを整えるくらいであった。

競技場が上尾競技場に似ていたことが第一印象だった。やはり全国大会ともなると、各県から精鋭ばかり集まってくるためか、選手たちの意気込みも実にすごかった。宿は、競技場からバスで十分くらいのところの民宿だったが、田舎の方だったので、バスの便が悪かったことが一番困った。けれども民宿では、大変もてなしてくれて、細かい点にも気を配ってくれたり、親切にしてくれたのが心に残っている。

越高が民宿している近くに、岸和田、春日部高、川越工が民宿していて、偶然に食事が同じところですることになっていたので、その時少し話をした。だがその他の学校とは話をする機会はほとんどなかった。

ボート

結果
五位

八月一日と二日の二日間、三十分から一時間練習をした。親のつくりがまるっきりちがうのでとてもやりにくかった。

レースは三日から始まり、三日は予選が行なわれて一位になった。四日は軽い運動やゲームなどをして過ごし、五日は台風のため外へも出られずレースは行なわれなかった。六日は、準々決勝と準決勝の二日分の日程が行なわれた。準決勝では一位になり、準決勝は今治西高校だったが、三分の一艇身差で負けてしまい、順位決定戦に臨んだ。

予選などの予想も、ぜんぜんあてにならず、やってみなければわからないレースだった。

テニス　二回戦で敗退

結果
一回戦
新井・大薗　4－3　青木・網崎（福井・小浜水産）
二回戦
新井・大薗　0－4　占部・梶毛（広島・福山誠之館）（第一シード）

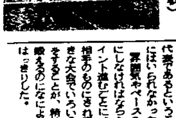
八月六日徳島市蔵本公園テニスコートにおいて行なわれた。試合前三日間は、台風の影響で天気が悪く、全く練習できなかった。

一回戦では、前半リードしておきながら、後半追いつめられてしまった。二回戦では、相手が全国の第一シードとあって多少の力の差も見られたが、全国大会ということをあまり意識せずにできた。

試合は、県の大会より近迫したものが見られた。やはり勝敗のわかれめは、技術面よりも精神面の方が大きく作用していたようだ。

埼玉県同志の選手が応援しあったりして、いつもは見られない光景が見られた。また他校の先生やコーチにもアドバイスなどを受け、越高の代表であると同時に、県の代表であるということを意識せずにはいられなかった。

雰囲気やペースをこちらのものにしなければならないのに、一ポイント進むごとに、逆にペースを相手のものにされてしまった。大きな大会でいろいろな相手と試合をすることが、精神面、技術面を鍛えるのになによりもよいことがはっきりした。


（テニス・二回戦）

善戦むなしく　バスケット

結果
越谷54（19－29／35－45）74豊浦（山口県）

七月三十日朝八時に単加へ集合して、越高バスケット部は、暑い四国へ出発した。その日の午後五時ごろに宿につき、すぐに練習にとりかかった。なにしろ四国は、むし暑く初日の夜は、だれもが汗まみれになりながらも、どうにか夜中の三時ごろには寝たようだ。

対戦チームは、山口県立豊浦高校で、この二、三年全国出場しており、去年はベスト8までにも進出したチームである。いざ試合をやってみて、無回出場というのは、やはり身体にとって、大きな武器であったようだ。

身長は一回り大きく、無失十三名みんなが上がり、交代するながらやってきた。いつもの調子でやったのに大差で負けた。〔以下判読困難〕

初陣飾れず　県高校野球予選

去る七月十五日より、全国高等学校野球選手権埼玉予選が参加六十一校で盛大に開催された。Aブロック・Bブロックに別れて、大宮・浦和・熊谷・川越初陣の各球場で三回戦まで、準々決勝からの試合は大宮球場で行なわれた。

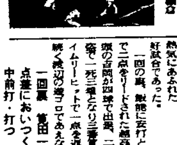
越高野球部は大会第三日目の十七日（土）、大宮球場で一回戦飯能高と対戦した。初出場とあって張り切る越高ナイン。一方、ベテランの飯能高ナイン。スタンドは第二試合ということもあって一塁側に陣取った内野席は満員。熱気にあふれた越高の応援団に越高の好試合であった。

一回の裏、飯能に安打とボークで二点をリードされた越高は、先頭の吉岡が四球で出塁、二盗、三盗で一死三塁となり三番管田のタイムリーヒットで一点を返したが続く渡辺の遊ゴロであえなく併殺。

その後、三・五回と飯能は得点を加えたが、越高は両翼に打ちとられてしまった。そして八回の裏石井が二塁打で出塁、猿田の送りバントで三進、八番正田のスクイズバント失敗で三塁、ホームベース間にはさまれタッチアウト。九回の裏、初球をねらった偶横は三ゴロ、吉岡センターフライで二死後、楠井がレフトへの二塁打を放ったが残塁に終わった。

八回、九回と得点圏に入りながらも、反撃ならずに試合終了。惜しくも敗退。

また、一回ボークを出した越高は後半立ち直り、まったく得点を許さず三者ずつで終らせた。

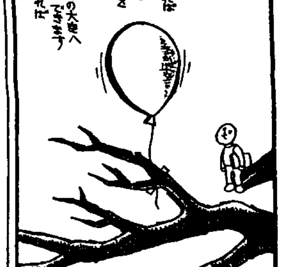


											計
飯能	2	0	1	0	1	0	0	0	0		4
越谷	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1

勝　小熊　敗　鋼谷

〔越谷〕打数・安打・打点・残・三振・四球（判読困難）
（5）村野、（4）中島、（2）府水、（6）白方、（3）石田、（9）鋼川、（7）小製、（8）井、（1）山下
〔飯能〕（判読困難）
△三塁打　口方　△二塁打　石井、楠井、村野　△盗塁　越2（吉岡2）飯2（口方、石田）　△ボーク　越谷2　△失策　越2（猿田、楠井）

越高戯画



月ケ峰で　サマーキャンプ

七月三十、三十一日と一泊二日に渡り、第三回サマーキャンプが昨年と同じ秩父郡白久駅下車岡台高原月ケ峰キャンプ場で、埼玉県教職員組合と第三回サマーキャンプ実行委員会の主催で行なわれた。

サマーキャンプの中心である分科会は、十に分かれて、それぞれ違ったテーマで話しあわれた。そのひとつを紹介すると、第六分科会第一分散会で、テーマは「平和について」。自衛隊は「軍隊だ」「必要ない」「防衛のためには、軍事力は必要だ」ということから「どうやったら、ほんとうの平和をつかめるのだろう」と今後の活動のことまでに討論された。その中に、全日本空輸と自衛隊機の衝突事故の話題がはいり「今の自衛隊では、平和はありえない」という声が、大きかった。また、唯一の論争点は「本来、国として、武装は必要か、否か」で、二つに分かれ、意見を出しあった。結論は出なかった。

「多くの県下の高校生（約十名位）が集まり、二日間、楽しかった」という声が多かった。越高の参加者は、少なく、そして、男子のみで、四苦八苦した。「来年は、もっと多くの越高生を参加させたい」という声があった。

参加するための会費用は、千円と安かった。

なお、日程は、第一日目、十一時より受付、全体会、分散会、夕食（自炊）、レクリェーション、交歓交流会（新企画）、学校ごとの話し合い（同上）、消灯。第二日目、朝食、分散会、全体会、閉会式、そのあと、十二時に解散と、以上でした。

待望のプール　来年七月完成予定

越谷高にもようやく、プールが設置されることになった。父兄や生徒からの以前からの希望が、プールを作る動機となり、積立金を利用して作ることになった。位置は、女子バレーコートあたり。そのため、十月ころからバレーコートや木の移動などの準備が始められ、来年の七月一日のプール開きまでに完成の予定。プールは、長さ五十メートル、幅十七・六メートル、水深一・二メートルから一・五メートルで七コースとし、他の設備として、男女更衣室、トイレ、また定の設備として、シャワー室、管理室、男女更衣室、トイレ、また定時制も利用するため、夜間照明を取りつける。その他、特徴として鋼板作りのため、水もりがなく、さびつかない、といった利点がある。このプールを作るための総経費は、三千二百四十三万円ぐらいである。

適性と可能性で　コース制

二年生を対象とする「コース調査」が七月七日に行なわれた。それによると、男子の理数と女子の二コース、男子の文理と女子の二コースの人数がだいたい似ていた前者が百三十五名約百二十三名、後者が五十七人余六十名であった文理と二コースのように単位数や人数の変わらないコースでは、ミックスクラスということも、今、考えられている。

では、何のために〝コース別〟に分離するのか。

学校としては、教科書採択のために時期的に早くこのような調査をし、進路適性に応じてもっている可能性をフルに発揮して、よりいっそう進路に適切させるためだそうだ。だが事実、このように書籍してコースを選んでいる生徒は、多くはないだろう。

選択コース数（男女共二コース）の決まってしまっている今、生徒側の要望は〝自由選択〟ということだ。これはある程度学校も認めているようだ。それは選択に関する理解として、必修科目をおさえ選択を自由にする。というようにするためにからだ。でもそのようにする場合には教室や教師の数が関係してきて、越高ではそれが少ないために少々無理なのが現状である。

久伊豆

◆毎年終戦記念日がくると戦争について聞いた話を思いだす。

空襲のために防空ゴウに入り夜を明かしたこと。食料不足で空腹と戦ったり、招集命令を受けて家を離れた祖父におにぎりを持って会いに行ったこと。また学徒動員で工場で働いたことなど……。

そして広島長崎に原爆が投下されたあの瞬間から二十六年。今日でもまだたくさんの被爆者たちが、満足な治療も受けられずに病気と戦っている。八月六日初めて佐藤首相が広島を訪れた。これを阻止しようとした学生たち。その中で慰霊式がおごそかに行なわれた。時とともに戦争は忘れられてしまいそうだ。戦争体験者ではない私たち高校生だが過去において戦争で苦しんだ人々。現在は傷痕に戦いる事を忘れてはならない。

戦争のない日本は平和だと言われている。しかしほんとうに平和なのだろうか。今の日本にはみんなの生活をおびやかす危険がせまっている。例をあげれば、今日本列島が公害化し、公害列島とよばれまた今までの戦争での死者より多い交通事故で死んだ人々。まさに交通戦争である。また自分の生活をささえる土地を奪われまいと死守している三里塚の農民たちに強制しようという公団の権力などきりがない。自分の足もとだけを見ていれば平和にも見えてくるが、社会のいろいろな面を見たらどうだろうか。もっと広い目で日本を世界をみつめていきたいものである。

◆人間不信が高まってきた現在。教師・親、そして友人にまで不信感は広がってきた。そして私たちは自分という一つのカラの中にとじこもってしまって一人一人孤立してしまっているようだ。そのような無味乾燥な社会の中で生きていく事は苦くはないが、あまりにもむなしく、あじけないのではないか。私たちは生きる喜びを欲しているはずだ。だからこそ、真正面でぶつかりあう会話、良い意味での意見の対立が必要なのではないか。

県立越谷高校制服取扱店
本店
女子高生の店
レデイースショツプ
とよだ
中町10－2
TEL 62－2878
支店
MEN'S SHOP
JUN
TOYODA
新町3－4－7
TEL 62－2574

時計・メガネ・貴金属の御用は
セイコーグランドショツプの
いとう時計店
駅前通り国道角　TEL 0489(64)2857－8

☆☆☆☆☆☆☆
学生靴ならやつぱり！
ナナホシ靴店
本店　越谷3丁目　歩道橋際　TEL 0489－62－3418
支店　越谷1丁目　ヨーカ堂通り　TEL 0489－63－0807
☆☆　☆☆☆☆